

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372300901		
法人名	社会福祉法人樹の里		
事業所名	グループホーム樹の里		
所在地	愛知県瀬戸市紺屋田町93番106		
自己評価作成日	令和4年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2372300901-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和4年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染者の減少により感染対策を図りつつ直接面会を行い、たくさんのご家族様に定期的に面会して頂いております。外出は難しい状況は続いておりますが、ホーム裏庭を改修し、車いすの方でも無理なく楽しんで頂けるようになりました。外でのおやつや園芸などを体に無理なく行ってあります。隣接する幼稚園とはフェンス越しに運動会の観覧など交流し、地域の方々から花の苗や種を頂き花壇に季節感を感じて頂いております。屋上ではパターゴルフを楽しむホーム内では活動性の高いレク(棒体操、ボール投げ等)を行い体力低下の防止を図っております。外出できなくとも施設内のハード面を活用し環境の変化を感じて頂いております。畑でできた野菜を献立に活用しおいしく召し上がって頂いております。手づくりのおやつにも力を入れ作る楽しさとおいしく食べる楽しさを感じて頂いております。生ごみはたい肥に変え、SDGsに取り組み節電節水節約ごみ削減に力を入れております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議では社是・経営理念・社訓・職員憲章5ヶ条を唱和し職員に周知しています。年度初めにホームの目標や事業計画を具体的に数値化できる様作成し、毎月振り返りを行い進捗状況を確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から職員を介して花の苗や種を頂き花壇に植え季節感を感じて頂いております。隣接する幼稚園とはフェンス越しに運動会やお遊戯等観覧し、交流を図っております。福祉短大の教育実習も受け入れ学びを深めてもらっております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での申し込みや相談、またソーシャルディスタンスを保ち直接来棟されてのアドバイス等の対応を行っております。見学も短時間で対応しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回コロナの感染状況を踏まえつつご家族に資料の送付を行い、電話やfaxでご意見やご希望提案など伺っております。年に1回でしたが感染者の減少時短時間で開催する事が出来ています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導で指摘事項を伺い、その都度必要な対応の相談し連携しております。運営推進会議に委員として参加していただき意見を伺っております。開催できなかった時は資料を送付しご家族等の意見等議事録を作成し報告しております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に指針やマニュアルにもとつき入居者様の尊厳を守るケアを心がけております。今年度は認知症の問題行動の多い方々の対応に焦点を当て「不適切ケア」について振り返り検討を行っております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員を中心に定期的に研修を行い「高齢者虐待防止関連法」について学び理解を深めております。委員会でミニ研修を行い、最近の虐待事件等を取り上げることで身近なものとして学びを深めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH会議内において「成年後見人制度」や「日常生活自立支援事業」について伝達ミニ研修を行っており、身近な制度として認識し理解を深めております。退居後も必要な記録等準備するなど積極的に対応しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明マニュアルを用いて質問し易い雰囲気を作り、十分な時間を用いて丁寧に説明しております。金銭面については分かり易く説明する事に心がけております。起こりうるリスクや退居への対応は理解して頂ける様説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染予防の為書面での開催時は、ご家族や委員に資料を送付し、意見や要望を電話やfaxで伺い運営の参考にしています。ご家族には毎月最近の写真を送付し面会や電話連絡時には近況報告をし、話しやすい関係に努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	長年職員の異動なくチームワークを大切にし気軽に意見交換できる環境になっている。GH会議では参加できない職員より気づきシートで意見の抽出をし、問題提議が出来る状況になっています。年2回人事考課で思いや要望を聞いています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回表彰制度や年2回人事考課があり意欲や向上心が持てるよう支援しております。安全衛生委員会で職員の身体面(腰痛予防)やメンタルケア(アンガーマネジメント)を行い職員を多方面から支えております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てe-ラーニング等を用いて資格の有無により区別し閲覧することで知識の向上を図っております。コロナ禍の為外部への研修は最小限となっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為以前のように意見交換やコミュニケーションが行えない状況が続いております。親しい同業者に電話などにより、サービスの質の向上や悩みの相談等交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度もご家族やケアマネなどから情報収集し、現在の身体、精神状況や要望等伺い、不安や、心配事など表出できる関係性を築いています。ご本人の意思で入居して頂ける様相談助言をしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にご家族の不安やご本人さんの現状を伺い、入居されてからは電話で近況を報告しています。また、質問や要望に速やかに対応できる様努め安心感や信頼感を築ける様努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談や入居申し込み時に現在お困りな事や不安を伺い、適切なサービスを共に考え提案しています。状況に応じて他事業所を紹介し、情報共有して連携を図り最適な対応が出来る様努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に毎日過ごす中で入居者様一人一人の強みを把握し、役割や意欲をを持って頂き、感謝の気持ちを伝えることでお互いに支え合う関係作りに努めております。園芸や家事等職員とともに行い知恵や工夫を教わり助け合っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接やWEB面会時本人と会話が成り立つように仲介に入り、会話を楽しんで頂ける様配慮しています。毎月1回最近の状況を写真で送付し状況の変化があればその都度連絡相談しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外出や面会制限があり現状は関係性が途切れてしまっている状況です。コロナ収束後は以前のようなじみの場所に出かけたいと思っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の様子から関係性を把握し、楽しく過ごして頂ける様テーブル席等配慮しています。又活動性の高いレクを全員で行う機会も設けホーム全体で楽しんで頂いております。上手くできない方を出来る方が助ける支え合いも声掛けしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為直接的関わりは難しい状況ですが電話での情報交換やご家族様が施設来棟時あいさつや会話を継続的に行っております。退居の際御見送りに参列し、ご家族から感謝されています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりから入居者様の思いや希望など把握し、ご家族様からも情報収集を頂きつつホーム内で行えるよう工夫し希望をかなえる様努めております。(裏庭でのおやつ、施設周囲の散歩、屋上でのパターゴルフ等)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネより以前の生活状況を伺い普段の様子やサービス利用時の状況等情報収集しております。また、日々の会話の中でご本人より生活歴を伺い得られた情報は職員で共有しケアに生かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況をタブレットに入力いつでも記録が確認できるようになっております。必要時はケアカンファレンスを行いより良いケアに繋げております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はおおむね6か月に一回モニタリングを行い、見直しをおこなっており、その際住診医、リハビリの先生ご家族から意見や指示を頂き担当職員等とケアカンファレンスをしケアプランの作成を行っております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や発語、ケア状況をタブレットに入力しています。勤務前に記録を確認し、連絡帳などで当日の予定も把握し、業務にあたります。ケア状況をタブレットで確認しケアカンファレンスで検討ケアプラン作成に生かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設のコロナ対策マニュアルにもとずき入居者様やご家族のニーズを出来る限り叶えられる様検討し、複合施設の利点を生かし共有空間を利用し楽しんで頂ける様工夫しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為地域とのかかわりは職員が仲介することで繋がっております。久しぶりに運営推進会議を10月に行い、地域の方々に近況を伝え意見や提案を頂くことで共に支える体制を築いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診、月1回の眼科往診、必要時歯科往診をご家族や入居者様の希望により依頼しております。往診医の指示により血液検査や胸部X-Pを行い体調不良時はご家族の希望を伺い、受診介助を行い事後報告しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算を看護職員と往診医の24時間オンコールで整え対応しております。体調不良時は速やかに往診医やご家族に連絡後指示をもらい適切な対応を行う事で早期回復を支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連携を図り安心して治療を受けられるよう入院準備など支援しています。医療機関との情報共有し連携を図り早期回復に向け対応しています。安心して退院が出来るようご家族と連絡を取り支援しております。SWと常に連携を図って情報交換しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重症化や終末期のあり方の希望を伺い同意を得ております。状況においては再度意思確認を行っております。医療連携体制を整えることで入居者様やご家族様が安心して生活して頂ける様努めております。看取り研修を受け適切な支援が出来る様体制作りに取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを設け全職員が把握しています。緊急時の対応を研修で学ぶことで基本的な処置等を身につけております。コロナ禍以前は地域の消防署より救急対応の研修を定期的に受けておりました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を設け非常災害時の対応や非常食の確保などしております。夜間土砂災害時の避難訓練を夜勤者により行い対応できる様常に確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間計画で認知症や倫理法令、プライバシー保護、高齢者虐待、身体拘束等研修を受け学んでいます。身体拘束適正化委員会を3か月に1回行い、高齢者虐待防止委員会を毎月行い「不適切ケアについて振り返り」を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中で入居者様の思いや希望を読み取りコロナ禍でも行えることを考え実施しております。レクやおやつ、飲み物など選択できる声掛けを工夫し楽しんで頂ける様働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の体調やペースその日の気分などから家事やレクの声掛けしやりたいことを選んで行ってもらっています。無理強いすることなく達成感を感じてもらいつつ感謝の意を表すことで役割を感じてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族や入居者様の希望に沿って理美容を依頼しております。起床時や入浴後の整容の声掛けを行い、衣類の選択は季節に合わせたものを職員と一緒にしております。衣替えはご家族や入居者様と相談しつつ職員が一緒に行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事のおかずやおやつ作りを行っております。ホームの畑で収穫した野菜を用いて季節感を感じて頂いております。食事の準備や後かたづけは声掛けし行ってもらい、おやつや夕食バイキング、お弁当屋食等行い楽しんでもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コロナ禍で買い物外出が出来ない為、施設の管理栄養士が立てた献立を厨房にて調理してもらい提供しております。提供時形態の確認や好き嫌いへの配慮を行い、水分量や食事摂取量の確認をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けし、介助の必要な方には歯磨きの支援をしています。義歯の管理も行っております。往診歯科医の協力で口腔衛生管理を行い、月1回歯科衛生士の指導のもと口腔ケアの強化を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としてトイレ案内から必要な声掛け後始末まで個別性を考え行っております。排泄用品はご家族と相談し適切な使用を心がけております。プライベートカーテンを用いプライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2回の体操や週2回の乳製品の提供、10時15時、19時に水分補給をお好きな飲み物でとってもらっています。入居者が食事を全量摂取できる様声掛けや対応をしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに週3～4回入浴提供しています。体調を確認し気分やタイミングを見計らい声掛けしています。浴室では身体能力に応じて様々な福祉用具を活用し安全面に配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体操やレク、家事で活動性をアップし、生活リズムを整え夜間のスムーズな入眠に繋げております。寝具も週1回のシーツ交換や布団乾燥を行い就寝環境を整えております。昼間に30分程度午睡を促し傾眠改善を図っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬品(内服薬や外用薬等)の説明ファイルはいつでも確認できるようにしており、変更や追加処方時は申し送りし、周知徹底しております。往診医との連携により体調変化時は速やかに対応できる体制を整えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍の中でも個別性を考え好まれる事や気分転換を配慮してレクや行事を入居者様と考え実施しております。役割が持てる様強みを見出し家事や園芸等声掛けし行ってもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為以前のように外出は出来ませんが、施設屋上や施設周囲の環境を生かし、お天気の良い日には散歩に出かけ、屋外でおやつやパターゴルフを行っております。隣接する幼稚園とフェンス越しに交流を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為買い物外出は出来ておりませんが以前は買い物の際支払いをお願いしておりました一定金額を事務所に金銭管理し必要な物やご希望があれば職員が購入することで支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎは個別性を配慮してゆっくり会話が楽しめる環境を整え支援しております。ご家族からのカードやお手紙を仲介し渡す事や年賀状の送付を支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節を感じられる壁飾りを貼り絵で作成し、飾っております。又2か月に1回行った行事やレクの写真を貼って懐かしく見て楽しませております。毎日全員で清掃することで快適な生活空間を保っております。コロナ禍の為手すりやノブなどの消毒を毎日行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パズルや雑誌、ゲームなど入居者様自身でお好きな時に選んでもらえるよう、整えております。また、ソファに座りくつろげる空間でマッサージをかけていただき、心地よく過ごせる時間を過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍の為入居者様とご家族様と相談し、使い慣れた家具の持ち込みは最小限にして頂いております。歩行環境や使いやすさを入居者様とともに考え居心地の良い環境作りに努めております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	慣れない環境でも転倒リスク無く安全に移動が出来る様テーブルやソファの位置を整えております。歩行不安定な方がつかまりつつ安全に自力歩行できる様動線の確保をしております。		